

令和4年10月7日

南の風 455

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

選手に成長段階があるように、コーチにも成長段階があります。今回はそれを取り上げます。

前出の鈴木 良和氏の著書の引用を交えて書きます。

私はコーチの成長には、コーチ自身が持っているパーソナリティーが大きく影響すると思いますが、個々の努力によってレベルを引き上げ、成長していくことが大事だと思っています。鈴木氏は、指導者や経営者（コーチを含む）の成長段階を五段階に分けています。以下、鈴木氏の考えを抜粋します。

第一水準は「有能な個人」です。才能、知識、スキル、勤勉さといった個人としての能力は優秀なリーダーになれるだけのものを持っています。そしてその能力を活かして自分も生産的な仕事ができます。しかしこの段階のリーダーは、個の能力を発揮することはできても組織を動かすだけの能力はありません。

第二水準は「組織に寄与できる個人」です。第一水準と同じように優秀な能力を備えていて、その能力を組織の目的のために発揮できます。第一水準との違いは個の能力を活かすだけではなく、組織の中で他者と協力することができることです。

第三水準は「有能な管理者」です。個としての能力を持っていてその活用法も知っています。そのうえで自分が動くのではなく、達成すべき目標に合わせて人と組織を資源化して、管理・運営できます。

第四水準は「有能な経営者」です。組織が向かうべき明確かつ説得力のあるビジョンを持っていて、それを実現することができます。そして一つの成果に満足することなく、さらに高い目的を達成するために組織に刺激を与えることができます。

第五水準は「偉大な経営者」です。組織のトップとしての意志の強さとリーダーとしての謙虚さという一見矛盾した性質を自身の中に共存させています。そして一度の成功だけでなく、その成功を持続するような組織運営ができます。

これをバスケットボールチームに当てはめると、第四水準と第五水準の間に決定的な違いがあるような気がします。第四水準までのコーチは自分のカリスマ性で選手やチームを強化できます。そしておそらく成功を自分の手柄だと感じるコーチです。第五水準のコーチには成功に対する「謙虚さ」があります。有名になろうとか、コーチとしての力量を誇示したいという気持ちがありません。とにかく偉大な組織を作るという一点だけに焦点が合っているのです。

もちろん第四水準でも十分優秀なコーチです。しかし、偉大なチームを作るのは第五水準の指導者であることを、偉大な指導者たちの歴史が証明しているのです。

以上が鈴木氏の考えです。読者の皆さんは、どう感じられたでしょうか。

当然のことながら、私はバスケットボールを指導するうえで、カテゴリーが下がるほど教育者としての側面が求められると思っています。したがってミニバスを教えるコーチが、一番教育的な部分を背負うことになります。チームという組織の中での、しつけ、活動する上での約束、集団競技のルールなど、スキル指導以前に、子どもたちが身に付けるべき内容がたくさんあると思います。